
天空の戦火

ゆん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

天空の戦火

【Nコード】

N1391T

【作者名】

ゆん

【あらすじ】

あらすじ

今より2000年前に人間は科学の力で他の種族を奴隷とし空に浮遊都市を建設

選ばれた優秀な人間のみが住むことが許され増築を重ねられソラリス帝国として独立する

地上に残された人間はソラリスに対し宣戦布告

兵力で圧倒していたにも関わらず天上からの一方的な攻撃になすべなく半年で降伏する

その後地上は種族ごとに分かれ独自に文明を発展させていく
精霊の加護を受け発展したエルフ族

大きな鉱山を所有し鉄等の加工で発展したドワーフ族
欲望のままに侵略を続けて発展したオーク族

オーク族を上手く利用し漁夫の利を得て発展した竜族

戦後の不安定な内情につけ込み宗教を広め国として形を取り戻した
人族

5の大国あとはいくつかの小国によって地上は構成された

天上ではソラリス内部の皇帝の座をめぐり兄弟間で戦争に発展する
が互いに消耗したのを見計らって

密かに兵を集めて反乱の準備をしていたオーデインに国土の3分の
1を奪われヴァルハラを建国

その後は2国間で争いは続いている

そんな時天空の舞姫と称されるジュリアがヴァルハラの手に落ちる
数週間軟禁されたが内通者の手助けもあり脱出するが途中事故で地
上に落下してしまう

その知らせを聞いた幼馴染のセレスはソラリス主要都市の防衛の任
を受けたがジュリアを救出に行くことを決める

キャラクター紹介

キャラクター紹介

セレス

ソラリス帝国の姫にして王宮騎士団将軍

ザンテッキ
斬鉄姫とも呼ばれ戦場では常に最前線に身を置き片手で身の丈ほどある大剣を振り回す。

窮屈な王宮での生活を嫌い騎士団には自ら志願し実力で若くしてソラリス13将の一人となる

戦場の姿から武将と思われがちだが非常に聡明で智勇兼ねそろえた将軍である

女23歳

ガリアーノ

ソラリス帝国王宮騎士団副将軍

元々セレス専属の教師として城に迎えられる、セレスの相手が出来ず大勢の教師が辞めていく中唯一残った一人。

なぜかセレスが騎士に志願したため付き添いで入隊するが切れ者軍師としてセレスの右腕となり今にいたる。

乱戦は苦手だがフェイシングの達人で一騎打ちなら結構強い。

男32歳

ジュリア

セレスとは幼馴染でセレスの妹の様な存在

天空の舞姫と称され慈愛に満ちた少女でのんびりしているが芯が強い
女17歳

リシエル

セレス率いる騎士団六武将の一人

白銀のリシエルと呼ばれ美しい銀色の髪がトレードマーク
剣術を得意とし冷静で大局を読む目に優れ重用されている

女18歳

ローランド

セレス率いる騎士団六武将の一人

雷鳴のローランドと呼ばれ長槍の使い手で突きは雷の如く速い
指揮能力の高さから全体の指揮を任されることも多い

男23歳

アーク

セレス率いる騎士団六武将の一人

死神アークと恐れられ大鎌で敵を切り倒す姿は正に死神そのもので
ある

気まぐれなところもあるが最低限の仕事は確実にこなす

男16歳

はじまり

おはよ〜ガリアーノ朝ですよ〜!!

低血圧のガリアーノを起こせるのは唯一セレスだけである

むにやむにやセレス〜

(また寝言いつてるし・・・私の夢かな??)

むにやむにや紙飛行機の運転手を食べてはいけませんよ〜

(紙飛行機??運転手さん??いやいや食べないし・・・)

んにや〜どうやって帰るんだよ??

(紙飛行機で外出してたの??ていうかどんな夢・・・)

んん〜あつタンポポ・・・これで帰るか〜お前は歩いて帰れ

(っおいおい!!)

さあ〜おつきる〜!!!

突然目を覚ましたガリアーノは何事も無かったように静かに立ち上がる

うるさいぞセレスもう少し静かに起こせんのか??

じゃあさっさと起きて下さい!!

一応無駄なのは分かっているが言わずにはいられない

もう起きている!!これ以上はよ所に迷惑だ!!

ちなみにガリアーノの部屋の両隣はいい部屋なのだが・な・ぜ・か・空いている

(この人は本気で自分の寝起きの悪さもちよつとメルヘンな寝言も知らない・・・というか言っても信じない)

はあ〜とため息をつきながら二人は作戦本部に向かう

完全に寝起きの姿からは想像出来ないガリアーノの軍人としての姿がそこにはあった

昨日入った情報によるとジュリア嬢が地上にて行方不明となっている！！

本国からは拠点の防衛に専念するようにとの命令だ！！
誰か異議のあるものはいるか？？

ガリアーノは鋭い眼光で部下に睨みをきかせる
当然誰も異議を唱えられない・・・のだが

私は助けに行きたいけど・・・どうしてもダメかな？？

セレスは自分の立場や発言の重要性が分からない程愚かではない・

しかしそれでも幼馴染を見捨ててまで任務と割り切れる程冷徹では無い

セレスの発言はガリアーノにとって予測していたものでもあった
こんな姫だから支えたいのだ

ガリアーノは意を決した様に部下達に向かって言った
今より私と姫は軍より一時抜けることとする

後任はローランド補佐はリシエルに任せる

・・・戻れるはずがない・・・皆困惑の中ローランドが切り出す
上層部にばれれば復帰はおろか追放も免れません考え直して頂けませんか？

鋭い視線を寄せてうなずきながら逆に質問を投げかける
ローランド一流とはなんだ？

唐突なガリアーノの質問に面を食らう
質問が抽象的過ぎて答えかねますが私が思うに固定概念にとらわれない自由な発想を持ち実現出来る力を持つものではないかと・・・
突然話を変えられ不服ながらも自分なりの答えを述べる

それもよし！！しかし抽象的な質問なのならば相手が意図する解を
その自由な発想で導き出せ！！

ガリアーノの言葉が何を意図するのかローランドには分からなかつ

たが

この問いに対する答えを出さなければなにか確実にまずいことになると本能的に感じた

そんな中突然伝令が入る

伝令です北西の山手にヴァルハラ兵を発見。数から偵察部隊かと思われませんがどういたしましょう??

ローランド考えておくように・・・さあまずは目の前の敵を排除しよう

こちらも偵察部隊を出し本隊の陣・兵の確認を急がせろ!!

全軍戦闘に備えて待機するように!!

ガリアーノの指揮であつという間に部隊が編成される

騎士団として最後の戦かあゝごめんねガリアーノつき合わせちゃつて!!

全くだ!!とんだ姫に仕えたものだ!!

二人笑いながら最後の戦に赴く

開戦

敵軍の数前兵2千程本隊が5千程後詰は不明ですが全体で1万以上かと思われます

前兵は広く展開しており本陣に回りこむのは難しいでしょう
ガリアーノは一考し全体に指示を出す

敵の兵力はこちらの3倍近い！

その上山手に陣取り逆落としを画策しているはず・・・

無策で前に出たら蜂の巣にされるだろう！！

しかし勝利を確信した指揮官は本隊の前線に出っ張ってくるだろう・

・

ならばよせるまでのこと！こちらも広翼の陣を敷く！！

それは無謀ですこちらの兵は4千・・・ただでさえ数で劣るのに広く分散させては勝負になりません

ここは中央に兵を集中させての一点突破を狙うべきです

将兵の一人が進言する

それでは中央で囲まれて壊滅するのがわっかんないかなあ？

セレスは進言を一蹴し言葉が続ける

今日はあたし暴れるよ！！左翼につけてよ！！まとめてひきつけて叩くから！！

やる気満々のセレスは上機嫌に言い放つ

もとよりそのつもりだ！左翼にセレスと重装兵を中心に配置

中央はローランドに任せる騎馬隊を率いて敵本陣を叩け

右翼は弓兵を中心に進軍の援護をすることになるだろう

・・・では配置につけ！！

そして敵軍と対峙する兵力の差が予想以上だった

兵全体がざわめき恐怖心を煽る

そこにガリアーノは一喝を入れる
あんな烏合の衆に負けはありえん!!
次世代を担う若き者よ活目せよ!!
我が軍略とセレスの武勇余すことなく伝えよう!!
細剣をふりかざし宣言する

出陣!!!!

ローランドの意地

開戦である

相手に動きは無い

にらみ合い隙をうかがっているようだ

セレスを中心に左翼を伸ばし戦線を広げよ！！

まず動いたのはこちらだった

敵軍は伸びる先を押さえにけん制を仕掛けてきた

左翼後退陣形を崩してもかまわん！！

乱れた隊列を見た敵軍は追撃をかけてきた

後退したセレスは反転し敵の追撃を正面から受け止める

（前兵は性質上歩兵を中心に編成される山さえなければ重装兵中心の私の小隊の敵ではない）

ふん凡愚が・・・功に焦り攻めつけにはやる兵には僅かなスキを見せればこんなものだ・・・

今だリシエル敵右翼の拠点の守りは無いに等しい

半数を拠点制圧に向け残りはセレス軍と合流し敵を挟撃し迅速に中央軍と合流せよ！！

山の手前の高低さを利用し潜んでいたリシエルの伏兵部隊は

瞬く間に山頂の敵右翼拠点を制圧していく

その機に乗じてローランドの騎兵隊は素早く本隊に向けて進軍

そのころセレスは歩兵を一掃して重装兵は山頂拠点の制圧に当たらせ単機馬で駆け本隊へ一直線に向かう

（今日は私が総大将の首を取る！！ローランドに遅れはとらないもんね！！）

よし順調だ！あとは大将が奥に引つ込む前に首を取れば勝ちだ・
・
・
．．．ん？セレスの奴．．．困った姫様だ．．．
まあいい私も敵軍本隊に向けて進軍を開始する
全主力部隊が敵本隊に向けて進軍を開始した

勝ち戦を決め込み本隊の前衛よりから敵軍壊滅の知らせをいまかいまかと待ちわびている愚将の前に現れたのは

ローランドだった！

前軍壊滅の知らせを持った伝令より早い到着に本隊は混乱し守りが薄くなったところを一気に攻める

我が槍迷いのある刃などに止められるものではないわ〜！！

破竹の勢いで前進するローランドの隣にはいつの間にかセレスが合流していた

ローちゃん燃えてるね〜！！でも大将首は私が取るよ！！

竜巻のようにセレスは敵を薙ぎ倒しながら前進していく

しかしローランドにも意地がある

敵を引き付けていたセレスに敵本陣に一直線に駆けて来たローランドは負けるわけにはいかなかった

絶対に負けない！！

数分で前衛の守備は崩壊セレスは大将首を狙い大剣を振る

しかしセレスの剣先は空を切る

ローランドはセレスの剣に合わせて潜り大将首に向けて渾身の突きを放ち敵将を討ち取る

普通に攻めてはセレスに確実に遅れをとると判断しセレスを出し抜く敵将討ち取った〜！！

ローランドは勝鬨を上げほえる

不恰好ながらもセレスに勝てたことがなにより嬉しかった

しかしふつつつとセレスの怒りは頂点に達しようとしていた
もちろんローランドの成長を喜ぶ気持ちもある・・・

（ほんの少しだけだけど）

ああ〜悔しい！！

セレスも大声でほえる

残党狩りじゃ〜この場で生きてる奴は私の怒りを静めるためにぶつ
た切る！！

セレスの八つ当たりに敵は戦意を失い総大将を失った軍はあっさり
と撤退した

ガリアーノが到着するが敵軍の残党が微塵も残っていない

そこには鬼の形相をしたセレス・・・

・・・なるほど・・・

ガリアーノはそのまま拠点にこっそりと帰り全てを見なかった事に
したらしい

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1391t/>

天空の戦火

2011年10月8日23時32分発行